

七年第十四号當省達第二條ニ因リ人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ニ付被告タル官廳ノ長官若クハ其代人カ奏任以上ニ係ルキハ奏請ヲ經ヘキヤ否諸裁判所ヨリ伺出候向キ有之候處右第二條但書ハ元來同條第二項事件ノ証ヲ取ル爲メ云々ノ但書ニテ第一項ニハ關係セサル主意ナリ又十年丁第八十一号當省達ハ單ニ人民互相ノ詞訟ニ付喚出方相違候儀ニ付人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ニ付被告タル長官若クハ其代人カ奏任以上ニ係ルキハ奏請ヲ經ルニ及ハサル旨指令可及ト存候條一應仰高裁候也

明治十二年九月十九日

司法卿 大木喬任

太政大臣三條實美殿

(朱書)

伺ノ通

明治十二年十月廿三日

○第二款 郡區長及戶長ニ對スル訴訟

○明治十四年八月五日司法省布達

甲第四号

從來人民ヨリ郡區長及戶長ノ職務上ニ對スル詞訟ハ各上等裁判所ニ於テ受理審判致シ候處自今地方裁判ニ於テ受理審判候條此旨布達候事

但受理審判等ノ手續ハ是迄各上等裁判所ニ於テ取扱ヒ來候振合ニ可準候事

○第三款 行政裁判ニ係ル控訴上告

○明治十五年九月廿六日司法省大審院各裁判所へ達

丁第四十九号

官府ヨリ人民ニ對スル詞訟ノ控訴受否伺ノ儀ニ付別紙ノ通名古屋控訴裁判所ヨリ伺出テ朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

人民ヨリ院省府縣等ヲ控訴被告トシ覆審ヲ需ムル控訴受理不受理ハ伺テ經ヘキヤ否ヤノ儀ニ付伺

○第四編○行政裁判

人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟ハ明治九年一月第五号御達ニ依リ總テ本省ヘ伺出御
指令ヲ待テ受理致シ候儀ハ勿論ニ候爰ニ初發院省府縣等ヨリ人民ヘ被告トシテ始審
裁判所ヘ起訴シタル詞訟其始審裁判所ニ於テ之ヲ受理裁判シタル處該裁判所ニ對シ
不服ノ旨ヲ以テ人民(始審ノ被告ニシテ即チ始審裁判所ノ曲者)ヨリ院省府縣(始審
ノ原告ニシテ即チ始審裁判所ノ直者)ヲ控訴被告ト爲シ控訴スル時ハ尙ホ前顯御達
ニ準據シ經伺ノ上受理スヘキモノニ可有之哉此段相伺候條至急仰御指令候也

名古屋控訴裁判所長

判事 小畑美稻代理

明治十五年八月廿九日

司法卿大木喬任殿

朱書

伺之趣經伺ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

○明治十二年六月十四日司法省 大坂ヲ除ク各
上等裁判所
別紙ノ通大審院ヘ相達候ニ付此段爲心得相達候事
別紙

大審院

人民ヨリ院省使府縣等ヘ對スル詞訟ニシテ上等裁判所ノ裁決ニ不服ヲ唱ヘ上告スル
者アル時ハ自今其都度書類相添受理ノ義一應當省ヘ伺出ヘク此旨相達候事

○第二章 詞訟代理

○第一節 代理人規則

○明治十三年五月十三日司法省布達
甲第一號

明治九年當省甲第一號代理人規則左ノ通改正候條此旨布告候事
但該規則ニ牴觸スル從前ノ布告ハ總テ廢止タル可シ

○第四編 ○詞訟代理 ○代理人規則

代言人規則

第一款 總則

第一條 代言人ハ法令ニ於テ代言ヲ許サレタル詞訟ニ付テ原告又ハ被告ノ委任ヲ受ケ其代言ヲ爲ス者トス

第二條 代言ノ業ヲ爲サント欲スル者ハ第四款ニ掲グル所ノ手續ニ依リ定式ノ試験ヲ經テ司法卿ノ免許ヲ受ク可シ

第三條 免許ヲ受ケシ代言人ハ大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言ヲ爲スヲ得

第四條 代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者左ノ如シ

- 一 未丁年者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 三 盜罪詐僞罪ニ付刑ヲ受ケタル者
- 四 國事犯ヲ除ク外懲役并ニ禁獄一年以上ノ刑ヲ受ケタル者

○明治十四年一月二十四日司法省布達

甲第二號

司法省明治十三年甲第一號布達代言人規則第四條第四項左ノ通り改正候條此旨布達候事

四 懲役禁獄一年以上ノ刑ニ處セラレタル者

五 官吏准官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケシ者ハ必ス第二款ニ掲グル所ノ代言人ノ組合ニ入りテ其規則ヲ守ル可シ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲スハ其地組合ノ規則ヲ遵守スヘシ

第六條 代言人新ニ免許ヲ受ケシ時及ヒ他ノ地ニ轉住セント欲スル時ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事(檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ)并ニ議會長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ時ハ免許狀ヲ檢事ニ返納ス可シ

第七條 代言免許ハ滿一年(月ヲ以テ算フ)ヲ以テ限トシ免許料ハ金十圓トス其業ヲ繼續セ

○第四編○詞訟代理○代言人規則

ント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖^ク凡^ク之ヲ還付セス

第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受クル時免許料ヲ直チニ檢事ニ納ム可シ

引續出願ノ者ハ必ス免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタルキハ期限後ニ係ル未タ免狀ノ下付有ラサルモ其儘^ト代言ヲ爲スヲ得ヘシ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ス又ハ期限前ニ於テ引續願ヲ爲サスシテ

免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サト欲スル時ハ新規出願ノ手續ニ循フヘシ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出ス可シ但願書ノ副本ニ檢事ノ檢印ヲ愛ケ置キ引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代言人タルノ証ト爲ス可シ

第十一條 代言ヲ爲スニハ必ス詞訟本人ノ委任狀ヲ受ク可シ

第十二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分ス可シ

第十三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

第二款 議會

第十四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄每一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クス可シ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ因リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルコトアル可シ

一 互ニ風儀ヲ矯正スル事

二 各譽ヲ保存スル事

三 法律ヲ研究スル事

四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事

五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事

○第四篇○詞訟代理○代言人規則

六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事

七 故ナク時日ヲ遷延セサル事

八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照會ヲ經可シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第十五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニ於テ投票ノ多數

ヲ以テ定ム可シ若シ投票ノ數相均シキ時ハ先キニ免許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日

相同シキ時ハ年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第十六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル時ハ之カ代

理ヲ爲ス可シ其任期ハ各滿一年トス但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續

スルハ三期ヲ以テ限リトス

第十七條 第二十二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アルハ各代言人ハ之ヲ會長ニ報

告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發ス可シ

若シ會長告發ヲ遷延シ又ハ其所犯會長ニ係ル時ハ各代言人ハヨリ直チニ檢事ニ告發
ス可シ

第十八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次十五日ヲ過クルヲ得

ス若シ己ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル

時ハ必ス檢事ノ認可ヲ受ク可シ但其會費ハ各代言人ニ於テ之ヲ擔當スル者トス

第十九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作り其本貫族籍住所年齡及ヒ代言免許ノ年月日

ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ記ス可シ

第二十條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ其旨ヲ會長ニ届出ツ
可シ

第二十一條 會長及ヒ副會長ト雖モ代言ノ職業ニ付テハ一般ノ代言人ト異ナルナシ

第三款 懲罰

第二十二條 代言人左ノ條件ヲ犯ス時ハ輕重ヲ量リ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依

○第四編 ○詞訟代理 ○代言人規則

テ懲罰スヘシ

- 一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者
 - 二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者
 - 三 訟廷ニ於テ相手方ヲ凌辱罵詈シタル者
 - 四 詞訟ヲ教唆シタル者
 - 五 證據ト爲ル可キ者ヲ捏造シタル者
 - 六 他人ノ詞訟ヲ買取り自己ノ利ヲ圖ル者
 - 七 強テ謝金ヲ前収シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者
 - 八 故ラニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ヒ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者
 - 十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者
- 第二十三條 懲戒ノ目次左ノ如シ

- 一 誹責
- 二 停業
- 三 除名

第二十四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十三條ノ罰目ヲ併科スルコトアル可シ

第二十五條 誹責ハ止テ呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代官人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニ非レハ復タ代官人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重キ者ハ終身之ヲ許サス

第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルキハ其旨ヲ裁判所ノ扣所ニ揭示ス可シ

第四款 出願
第二十六條 代言免許ヲ願フ者ハ第二十九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ作り現住戸長又ハ區長ノ與印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受クヘシ

○第四篇ノ詞訟代理○代官人規則

第二十七條 出願定月

二月 八月 各上下半ヶ月ヲ以テ限リト爲ス

第二十八條 ソケン クラモク 試験ノ課目左ノ如シ

一 民事ニ關スル法律

二 刑事ニ關スル法律

三 訴訟ノ手續

四 裁判ニ關スル諸規則

第二十九條 願書及ヒ履歷書式

代言願

本貫住所 (寄留ナルキハ其寄留所ヲ記入ス可シ)

身分

氏名

代言營業仕度ニ付御試験ノ上免許被成下度此段奉願候也

年 齡

年號月日

右

氏名 印

司法卿某殿

前書ノ通出願候ニ付キ與印候也

右戸長 (又ハ區長)

氏名 印

履歷書

本貫住所 (寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記入ス可シ)

身分

職業

氏名 年 齡

○第四篇○詞訟代理○代言人規則

一地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何年迄何學修行何某ニ隨ヒ何技術ヲ修行
 一何年何月日(官職)ニ任シ何年月日(免官)(辭職)
 一何年月日何々ノ廉ヲ以テ何廳ヨリ賞典ヲ受ク
 一何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ刑ヲ受ク
 一何年月日身代限ノ處分ヲ受ケ何年月日辨償ノ義務ヲ終カフ
 右ノ通ニ御座候也

年號月日

代言引續願(免許狀紛失氏名改換ノ時)
(ノ願書モ此式ニ做フ可シ)

引續代言營業仕度候ニ付免許狀御下付被下度此段奉願候也

本貫住居(寄留ナル時ハ其寄)
(留所ヲ記スヘシ)

免許代言人

年號月日
 氏 名 印

司法卿某殿

○明治十三年二十九日司法省達
 丙第十六號

明治十二年五月司法省丙第七號達左ノ通改正候條此旨可相心得事
モソフヒツシヨカツ 文部省所轄東京大學ダイガク法律學部ハツリツクニ於テ法律學卒業ノ者代言營業出願セシ時ハ明治十三年
 五月司法省甲第一號布達改正代言人規則第二十七條(出願)第二十八條(試驗)ニ關セ
 ス免許狀授與候條右出願ノ節ハ卒業免狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添ツヘ進達可致此旨相
 達候事

但本文試驗ニ關スルモノ、外代言人規則ニ準據スルハ一般代言人ト異ナルヲナシ

○第二節 代人規則

○明治六年六月十八日布告
 第二百十五號

○第四篇 詞訟代理 代人規則

人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ候規則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

代人規則

第一條 凡ソ何人ニ限ラス己レノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アル可シ

但本人幼年等ニテ其事理ヲ辨シ難キハ其後見人及ヒ親族ノ者協議ノ上代入ヲ任スルヲ得ヘシ

第二條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ其事ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人ノ關係タル可シ

第三條 凡ソ代人ハ心術正實ニシテ二十一歳以上ノ者ヲ撰ム可シ
告ヲ以テ滿二十歳ヲ丁年ト定メラレシニ付キ滿二十歳ノ齡ニ達スル者ハ皆代人ト爲ルヲ得ルモノトス

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ別アリ總理代人ハ其本人身上諸般ノ事務ヲ代理

（編者曰ク明治九年第四十一號布

スル者ニシテ部理代人ハ特ニ其委任スル部内ノ事務ヲ代理スルヲ得ルモノトス

第五條 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲サント欲スル時ハ必ス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フ可シ

但シ其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス

第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタル權限ヲ明白ニ記載ス可シ

第七條 委任狀書式左ノ通

拙者共儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ總理代人ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一何々ノ事 但權限ノ次第ヲ分條記載ス可シ
右代理ノ委任狀仍テ如件

○第四篇○詞訟代理○代人規則

年號何年何月何日

住所身分

姓名印

(後見人等ハ住所身分何誰ノ後見人何誰ト記ス可シ)

第八條 代人ヲ任スルノ期限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其本人幼弱疾病事故等ニテ長ク委任セントスル時ハ其地方ニ新聞紙アラハ之ニ記入セシメ世上ニ公布ス可シ

○明治十三年五月十三日司法省布達
甲第二號

明治九年甲第一號但書同甲第四號ヲ以テ詞訟代人ノ儀相違シ置キ候處今般代人規則改正ニ付右代人ノ儀左ノ通り可相心得此旨布達候事

詞訟ニ付原被告又ハ引合人等疾病事故アリ出頭シ難キ時又免許代官人之ナキ歟又ハ己ムヲ得サルノ事故アリテ代人ニ代言ヲ委託シ難キ場合ニ於テハ戶長又ハ區

長ノ公証ヲ以テ親屬又ハ相當ノ者ヲ代人ト爲スヲ得然レモ其代人タル者ハ一事件ヲ限り受任ス可シ若シ二件以上ヲ受任シ又ハ詞訟ヲ教唆シ私利ヲ營ム等ノ事アル時ハ裁判官ニ於テ直チニ其代人ヲ停止ス可シ

○明治十六年二月三日司法省達
丁第六號

民事裁判上引合人トシテ出廷セシメタル官吏着席ノ儀ハ明治十五年丙第三十二號達ニ準シ取扱フヘシ此旨相違候事(第二篇第四章第一節(増)ノ部見合スベシ)但シ人民ヨリ官廳ニ係ル訴件ニ對シ引合人ト爲リ出廷シタル官吏着席ノ儀ニ付テハ本文ノ限ニ無之事

○第三節 所屬代人規則

○明治十四年十二月二日司法省布達
甲第八號

○第四篇 所屬代人規則

大審院諸裁判所々屬代理人規則別紙ノ通り相定メ候條此旨布達候事

所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在ノ地ニ住居スル免許代理人ヲ云フ

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辯護人ハ正當ノ事由ヲ証明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三條 代言又ハ辯護受任中ハ代言免許滿期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辯護ヲ擔當スヘシ

第四條 代言又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代理人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ

總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サス

○第四節 使丁規則

○明治十四年十二月五日司法省達

丁第二十六號

使丁規則別冊ノ通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行致スヘク此旨相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受クルモノトス使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付キ總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ

○第四編 使丁規則

第五條 使丁ハ送達ヲ爲スル裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ

第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フヘシ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付キ代人トナリテ訟廷ニ出ルコトヲ許サス

第八條 送達ノコトニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタルルルハ使丁取締其償ヲ擔當ス

ヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニヨルルハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 (明治十五年六月廿六日丁第三十四號ヲ以テ左ノ通り改正ス)

送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツヘシ

但送達書ニ賃錢ノ高ナ附記スヘシ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第十一條 (明治十五年六月二十六日丁第三十四号ヲ以テ左ノ通り改正ス)

刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受候者ヨリ之ヲ拂フヘシ

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出スヘシ

第十五條 使丁取締及使丁此規則ニ違背シタルルル裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムル事

二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムル事

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在ノ地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者

○第四編○使丁規則

ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十圓以上ノ格價アル公債証書地券又ハ銀
行其他官許アル株券証書ヲ書記局ニ納ムヘシ

但此保証金ハ解職ノ時下戻スヘシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲スヘシ

但書記不足ナルハ雇テ以テ之ニ充ツヘシ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

一使丁規則 二請負郡村ノ地名又ハ里數 三普通書簡ノ書類

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未ダ辯償ヲ終ラサ
ルハ者使丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

○明治十五年三月廿二日內務省達

乙第二十號

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫ノ賃錢及ヒ赤貧者被告ト爲リ喚問旅費ノ儀從前郡區
役所又ハ戶長役場ニ於テ繰替又ハ官費支給候向モ有之候處自今一切不相成候條此旨
相達候事

○明治十五年四月五日司法省達

丁第二十一號

民事裁判人民召喚狀脚夫賃錢及ヒ赤貧者喚問途中旅費支出方ノ義ニ付キ明治十年本
省丁第八十六號達ニ及置候處嚮キニ內務省ヨリ協議有之今般同省ニ於テ乙第二十號
ノ通府縣へ達シ相成候條此旨爲心得相達候事

○明治十六年二月二日司法省達

丁第五號

刑事ニ付戶長ヲ經テ本人へ書類ヲ送達スヘキ際是迄戶長ニ於テ使丁賃錢繰替渡シテ
爲シ候儀モ有之候處自今右繰替ヲ要スル節ハ一時裁判所ニ於テ繰替置キ追テ本人ヨ

○第四編○使丁規則

リ償却セシムヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○明治十四年三月四日司法省布達

甲第三號

刑事民事ノ裁判上ニ係リ司法省ヘ對シ歎願或ハ再審願ト唱ヘ書面差出候者往々有之候處右ハ固ヨリ法律ニ戻リタルモノニ付自今指令ニ及ハサルハ勿論却下ノ手續ヲモ不致候條此旨布達候事

○第五節 廢戶主並財產管理處分方

○明治十五年八月廿二日司法省達

丁第四十四號

廢戶主並財產管理ノ儀ニ付左ノ通り太政官ヨリ御達相成候條此旨爲心得相達候事

司 法 省

廢戶主並財產管理ノ義ニ付別紙ノ通り内務省ヨリ伺出朱書ノ通り及指令候條其旨心得諸裁判所ヘ可相達候事

明治十五年八月十四日

太政大臣三條實美

廢戶主並ニ財產管理ノ儀ニ付伺

別紙島根縣伺ノ趣審案候處第一條受刑者廢戶主ノ儀ハ去ル明治十年中法制部ニ質問ノ上一年以上ノ懲役ニ處セラレ一家營生難相立場合ニ於テハ戶主ヲ廢スルヲ許可致來候處今般新刑法御實施ニ付爾後ハ舊例ニ準據シ輕重禁錮一年以上ノ處刑ヲ受ケ一家生計難相立者ニ限り父母若クハ親屬協議ノ上廢戶主出願スレハ聞届不苦候哉又其第三條禁治産ノ處分ヲ受タル者ノ財產管理ハ曩日上申致置候通後見人規則御設定相成候上同規則ニ據リ可取扱心得ニ有之候得共其第四條管理ノ職ニ任スヘキ家族親戚ナキ者ハ戶長ヲシテ財產保管セシメ其負債償却等ハ總テ裁判處分ニ歸セシメ候テ可然候哉全縣伺書(零之)相添此段相伺候也

○第四編○廢戶主財產管理處分方

明治十五年五月十九日

太政大臣三條實美殿

内務卿山田顯義

伺ノ趣左ノ通可相心得事

明治十五年八月十四日

第一條 廢戶主ノ儀ハ伺ノ通

第三條 財産管理人ノ儀ハ受刑者ヲシテ家族又ハ親戚ノ内ニ就テ之ヲ撰定セシメ

其姓名ヲ管轄裁判所ニ届出テ置キ他日賣買貸借等ノコアルキハ都テ該所ノ處分
ヲ仰カシムヘシ

第四條 戶長管理ノ儀ハ伺ノ通

○附錄

○明治六年一月十七日達

第十八號

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規則ノ通り可相心得事

地所質入書入規則

第一條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所ト証文トナ
渡シ貸主其作徳米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候テ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所ト引當ノ證
文ノミヲ渡シ借主ノ作徳米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候テ書入ト云フ

第三條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所引當ノ證文
ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候テ亦書入ト云フ

第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ヶ年ヲ限ル可
シ尤三ヶ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘタ且ツ年限取極候廉ハ判然証文面ニ記
載致シ置可申事

但書入ノ儀ハ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方

○附錄○地所質入書入規則

相對ニテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致シ置可申事

〔第五條〕

〔此條ハ十二年七號布
告ヲ以テ左ノ通改正〕

第五條 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金數ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主へ可引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加判ノ上金主ヨリ地券相添確認ノ証ヲ可願出事

第六條 質入レノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致筈ニ付テハ地租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳へ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作シ候儀ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事但管轄廳へ届出ニ不及候事

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖凡懸隔ノ地所ヲ質ニ取候節ハ其現地ノ町村へ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可爲相勤事

〔第九條〕

〔此條七年六號布告
ヲ以テ左ノ通改正〕

第九條 質入又ハ書入証文ニハ必ス其町村戸長ノ與書証印ヲ取ル可シ其村町戸長ノ役場ニハ與書割印帳ヲ備へ置証文ノ與書割印ヲ願出ル時ハ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ與書ヲ爲ス可シ若シ戸長ノ與書並ニ割印ナキ証文ハ質入又ハ書入ノ證據ニ不相成ニ付右証文ヲ以テ認出ルニ於テハ負債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先取ノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金數貸借ノ處分ヲ可受事但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長與書調印ス可シ

〔第十條〕

〔此條ハ七年五十二號布
告ヲ以テ左ノ通改正〕

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主へ引當ニ入レ置候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當テ借添へ致シ候儀ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ先ツ第一番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者へ元利ノ金數ヲ

○附錄○地所質入書入規則

引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡可申若シ糶賣ノ金高ナリテ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルモ其不足ノ分ヲ償フコト並ニ第三番以下ノ金主ニ償フコトハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ隨ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事

但第二番ノ金主受取候證文ヘハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添候旨ヲ記載可申事

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ヘ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事

〔第十二條〕

（此條七年五十二號布告ヲ以テ左ノ通改正ス）

第十二條 質入年期中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ル時ハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ代リ質ニ差入ル可キ地所物品等コレナキモハ訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フベク又池成野地成等ニ變換シ或ハ闕崩等ノ爲メニ其地ノ幾分ヲ失

フモハ變換ノ模様及殘存ノ大小ニ應シ規則ニ基キテ地券書替願出ヘキ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金數高ノ價ヲ爲スニ足ラサルト見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ増質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ増質ニ差入可キ地所物品等無之時ハ是亦訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フヘキ事

但貸主相對示談ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地所年期中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主（金主）ヨリ返起ノ見込ヲ定メ借地（地主）承諾ノ證書ヲ取り其管轄ヘ可願出尤モ入費ハ借主ヨリ償フ可キ事但借主起返ノ入費ヲ出スコト能ハサルモハ証書ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡シ可申尤相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第十四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則ニ照準當七月限リ證文相改メ可申事

右之通相定候事

○附錄○地所書入質入規則

(編者曰六年百六十七號布告ヲ以テ第十五條増補ス)

第十五條 是迄質入書入ニ致置候分ハ前約ノ年期^{スモガキ}過置不苦尤証文面等前文規則ニ觸^レ候廉ハ總テ相改可申事

(編者曰七年七十六號布告ヲ以テ第十六條増補ス)

第十六條 従前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月三十一日^{スギ}前ニ期限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返濟方ニ付延期ノ勘辨^{カンベン}ヲ加フル者ハ來十月三十一日迄ニ其地所所管ノ戸長役場へ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ與書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内與書割印ヲ受スシテ後日其証書ヲ以テ訴訟ニ及フ時ハ質入書入ノ證據ニハ相立サルニ付裁判上^{サキトリ}權賣分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事

○明治七年五月二日内務省達
乙第三十二號

本年第六號公布地所質入書入規則第九條改正文中戸長ノ與書証印ハ戸長又ハ副^{フツ}戸長實印ヲ爲^セ押割印ハ戸長役場印ヲ相用候儀ト可心得此旨相達候事

但役場印無之候ハ、彫刻申付右出來迄ハ戸長實印ヲ換用可致事

○明治十三年十一月三十日布告

第五拾貳號

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年六月布告并同年十月第百五十三號布告廢止候事

土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ(賣渡讓渡)證文ニ地券ヲ添ヘ其地ノ戸長役場ニ差出シ與書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人へ附與スヘ

但一筆^{ヒツ}ノ土地ヲ分割^{ブンリツ}シテ與書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其公界及坪數等ヲ詳記

○附錄○土地賣買讓渡規則

シタル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡與書割印帳ヲ備置キ與書割印ヲ請フモノアレハ地所質入書入與書割印帳ヲ見合セ登記無キニ於テハ(賣渡)證文ニ與書割印ヲ爲スヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人(賣渡讓渡)證文ヲ領收スルキハ地券(書換裏書)願書ニ雙方連印ノ土地券ヲ添ヘ戶長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコト得ルト雖モ地租并地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵收スヘシ

但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及ヒ離縁戶主ノ家督相續ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ(親族ナキモノハ近隣ノ戶主)ト連印ノ上戶長役場ヲ經テ地券(書換裏書)願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續ノ日ヨリ六箇月

以內ニ戶長役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス

但本條期限内ニ地券(書替裏書)願書ヲ差出ス能ハサル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニ在ラス

○明治十五年一月三十一日布達
第貳號

明治十三年(十一月)第五拾二号布告土地賣買讓渡規則第一條但書ノ儀左ノ取扱手續ヲ定ム

土地分割取扱手續

第一條 賣買讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケ地券書替ヲ請ハント欲スルモノハ境界ヲ明瞭ニシテ其反別ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分配シ其書面ヲ戶長役場ニ差出スヘシ

第二條 戶長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキ時ハ與書割印ヲナシ若シ反別實價配分上不適

○附錄○土地分割取扱手續

當ノモノアリト認ル場合ニ於テハ其旨ヲ説諭シ願人承服セサル時ハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管轄廳ニ具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受ル時ハ更ニ實地ヲ審査シ分界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ與書割印ヲ受クルノ手續ヲナサシムヘシ

但賣買讓渡ニアラスシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ノ土地ヲ分割スルモ前條々ノ例ニヨルヘシ

○明治八年九月三十日布告

第四百四十八號

諸建物書入質入規則並ニ賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條來ル十二月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

建物書入質規則

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返濟スヘシ証據トシテ(貸主預ケ主)ニ對シ引當

トナス所ノ建物ノ圖面ト証文トニ戸長ノ公証ヲ受ケタル者ヲ(貸主預ケ主)ニ渡シ置キタルヲ建物ノ書入質ト云フ

第二條 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルハ書入質証文ニ自身持地ノ建物ナルヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ルトキハ書入質ヲ爲スモノ其主ニ請ヒ其地主ヲシテ貸地タルヲ証スルノ與書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ與書ナキ証文ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト見做スヘシ(十年第
告ヲ以テ左ノ通) 六號布
但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ證スルノ與書
ヲ受クヘシ

第三條 金穀ノ(借主預リ主)ヨリ建物引當ノ証文ト建物ノ圖面トヲ建物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ與書割印ヲ受クルヲ公証ヲ受クルト云フ

第四條 建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所ノ建物ノ圖ハ朱引朱

○附錄○建物書入質規則

字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲ス可シ（第一號書式ヲ見合ス可シ）

第五條 戶長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ押印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ

若シ戶長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戶長奥書割印ス可シ

第六條 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル証文ニテ前條ノ規則ニ背キ公証ヲ受ケサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ（借用預リ）証文ト看做ス可シ

〔第七條〕

（此條八年百九十九號布告ヲ以テ左ノ通改正）

第七條 此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニハ必ス返濟ノ期限ヲ定ム可シ若シ其期限ノ定メサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ（借用預リ）証文ト看做ス可シ

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借金穀又ハ預リ金穀ニテ返濟期限ノ定メナキ証文ヲ所持スルモノハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀（借主預主）又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ム可シ若シ（借主預主）又ハ其相續人証文ヲ改メサルキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離每八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借金穀借用証文又ハ預リ証文ヲ所有スル者ハ返濟滿期ニ至ルト至ラサルトニ論ナシ明治九年二月廿八日迄ニ金穀（借主預主）又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ムヘシ若シ（預リ主借主）又ハ其相續人証文ヲ改メサルキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

○附錄○建物書入質規則

但書前同斷

第十條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取タルトヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何(府縣)管下(住居寄留)何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス証文ニ公書スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至リシ時ハ公書ノ差留ヲ解クコトヲ速ニ戸長ニ報知スヘシ

第十一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背明治九年五月一日以後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金數(借用預リ)証文ヲ所有スル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ(借用預リ)証文ト看做スヘシ

第十二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スコハ嚴禁ナレモ若シ第一番ノ金主ニ書入質ト爲シタルコトヲ第二番ノ金主承諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ又其建

物ヲ書入質ニ借添ト爲スコトヲ得ヘシ尤借主身代限ノ處分ニ至ルハ右建物糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘク若シ糶賣ノ金高チ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ

但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ証文ニハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三條 書入質ト爲シタル建物燒失流亡等ニ至リシ時ハ建物ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ趣キヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ(第三號ノ書式ヲ見合スヘシ)

○附錄C建物書入質規則

第十四條 書入質ノ建物^{ヒツツリツバウ}燒失流亡等ニ至リシキハ貸主ヨリ借主ニ對シ代リ質ヲ受取

ルコノ求メテ爲スコトヲ得ヘシ

若シ借主代リ質ヲ出スコトヲ肯ハス又ハ出シ能ハサルキハ借用金數返濟期限未滿内

ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

建物賣買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シテ爲サント欲スル者ハ

(賣渡讓渡) 証文ト圖面トニ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ又借地ニ建テ在ル建物ノ

賣渡讓渡) 証文ニハ其地主ニ請ヒ地主ヨリ貸地タルコトヲ証スルノ與書ヲ受ケタル

上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ(此條ハ十年二十八號布告ヲ

以テ左ノ通り但書ヲ追加ス)

但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬^{ボククワンシヤウ}管^コ廳ニ請ヒテ其貸地^{カシテ}タルコトヲ証スルノ與書ヲ受クヘシ

第二條 建物ノ買受ケ又ハ讓受テ爲サント欲スル者ハ自身又ハ其代人建物ノ在ル地

ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ニ見合シタル上其(賣渡讓渡)ノ証文ヲ受取リ然シテ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長^{フゾ}ノ面前^{マクサマ}ニテ何大區何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ(買受讓受)タル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日並ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ(十年六十號布告ヲ以テ若シ)若シ此手續ヲ爲ザルキハ建物(買受讓受)ノ効ナキニ付建物ノ代價ヲ受取タル旨ヲ記シタル建物証文ハ金銀借用証文ト看做ス可シ(第四號書式ヲ見合スヘシ)

第三條 戸長役場ニ於テ建物(賣渡讓渡)証文ノ與書割印ヲ願出ル時ハ是亦建物書入

質記載帳ニ記入スルコト及ヒ証文ニ與書シ圖面ニ割印スルコト建物書入質規則第五條

ニ準シ公證ヲ與ルノ手續キチナスヘシ

第四條 書入質ト成リタル建物ヲ(買受讓受)タル者ハ其建物ノ書入質トナリタル金

數ノ償却ヲ引受クヘシ但シ(買受讓受)人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スル時ハ書

入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及ハス

○附錄○建物賣買讓渡規則

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸主ヨリ讓受ケタル建
物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受ク可シ (括弧内朱書)

第一號 書式(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ヘユシ)

建物ノ圖ヲ引ク

ニハ紙ノ上下左

右トモ點線ノ外

一寸ヲ明ケ置ク

ヘシ

明治何年何月何日書入質

何大區何小區何番地建物

第一番 平長屋 何坪

第二番 土藏 何坪

第三番 二階造 何坪

何府何大區何小區何番地住居

建物持主 何某印

何某殿

管ハハ圖ノ如キ朱引ノ建物

ヲ書入質ト爲スルハ第一番

ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書

入質ト爲スヲ証文ニ記入

シ圖面ト共ニ質取主ニ渡シ

置クヘシ(但シ圖面ノ寫一

枚ヲ戸長役場ニ出シ置クヘ

シ

○附錄○建物賣買讓渡規則

第二號 書式

若シ一枚ノ紙ニテ狭キハ何枚モ繼
キ合セ繼目ノ裏ニ繼目印ヲ押スヘシ

明治何年何月何日書入質

何大區何小區何番地建物

第一番 何坪
平長屋

第二番

土藏 何坪

第三番

二階造
本屋
書入質之外也

何府何大區何小區何番地寄居

建物持主 何某印

何某殿

譬ヘハ圖ノ如ク朱引ノ建物

ノミニテ第一番第二番合ニ

棟ヲ書入質ト爲ストキハ其

旨ヲ証文ニ記入シ他ノ建物

ハ墨引ニテ書入質ノ外也ト

記シ圖面ト共ニ質取主ニ渡

スヘシ(但シ圖面ノ寫一枚

ヲ戸長役場ニ出シ置クヘ

シ)

第三號 書式

建物書入質記載帳ニ燒失
流亡等ノヲ書込ムノ法

(何號)

何年何月何日

何大區何小區何番地何番ノ建物

ヲ何某ヨリ何某ニ書入質ト爲シ

タリ

(何年何月何日 燒失
流亡)

[戸長何某印]

(何號)

何年何月何日

、、、、、、、、、、、、、、、、、

○附錄○建物買賣讓渡規則

金高(五千圓以上壹萬圓未満)

金高壹萬圓以上

三圓七十五錢

五圓

左ニ掲グルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラズ券狀一通ニ付三錢トス
代換授與併ニ水火盜難ニヨリ地券書換

荒地其他無代價地券授與書換

荒地起返及開墾銀下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所
有主變換セサル地券書換

(增)○明治十五年十二月廿一日布告

第六十号

戸長ニ於テ地所建物船舶賣買讓渡及質入書入ノ公証ヲ爲スヘキ際該物件又ハ所有主
ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公証猶豫ノ爲申立ツル者アル片ハ其裁判ヲ執行シ得ヘ
キ迄公証ヲ爲スヘカラス

右奉 勅旨布告候事

○明治十年九月十一日布告

第六十六号

利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓

以下ハ一ヶ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓

以上百分ノ十二(二割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノト

シ其制限マテニ引直サシムヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサル片裁判所ヨリ

言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六(六分)トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ

○附錄○利息制限法

用ル者アルル總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルルハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料金ヲ差出スヘキヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルルハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

○明治十三年七月七日司法省達

丁第十三號

利息制限外ノ質入証書ニ戶長公証ノ件ニ付別紙ノ通法制部ヨリ通達有之候條爲心得此段相達候事

別紙

法制部ヨリ通達(明治十三年六月廿三日)

利息制限外ノ質入証書ニ戶長公証ノ件ニ付舊法制局ヨリ及說明置候處今般閣裁ヲ

經テ左ノ通熊本縣ニ及回答候條爲心得此段及通達候也

法制部ヨリ熊本縣ニ回答

戶長ハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スルノミニシテ利息ノ制限ニ超ユルト否トニ關セサルモノトス

○証券印紙規則

○明治七年七月廿九日布告
第八十一號

明治六年(二月)第五十六號以下追々及布告候証券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊之通相定メ本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但帳簿罰則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ施行候儀ト可相心得事

別冊

証券印紙規則

○附錄○証券印紙規則

第一則 綱領

第一條 凡ソ人民財産ノ受授並ニ交際上相用候証書帳簿類ハ都テ此規則ノ証券(○印紙○界紙)ヲ相用フヘキ事

第二條 總テ規則ノ通證券(○印紙○界紙)ヲ用ヒサル者ハ後日如何舛ノ故障差起出訴ニ及ヒ候共其書類ハ一切取捨ケ裁判不相成候事

第三條 証券(○印紙○界紙)ハ買求差支無之様各府縣管下適宜ノ場所へ賣捌所相設置候條下條ニ掲載セル定價ヲ以テ買取ヘキ事

第四條 賣捌所ハ証券印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看枋ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

- 淡黑色印紙 定價一錢
- 薄青色 全五錢

- 青色 全十錢
- 黄色 全二十五錢
- 橙黄色 全五十錢
- 紅色 全壹圓
- 深紫色 全五圓
- 深紅色 全貳十圓

第六條 証券界紙ノ定價左ノ通候事

- 大判界紙 定價七厘
- 中判 全五厘
- 小判 全三厘

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖凡其証書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜タルヘキ事

○附錄○証券印稅規則

第二則 諸證書

第一條 諸證書ヲ分テ三種トス

○第一類諸證書

一 賣品並職業ニ管スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高十圓以上總テ一錢ノ印税十圓未滿ハ印紙界紙カインヲ用フニ及ハス

一 預リ金テラヌ○證文○手形

一 耕地小作證文コウチコサク

一 遺金證文ユイ

右ノ證書類ハ金高十圓以上ハ總テ一錢ノ印税十圓未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

一 質物○預リ書○小札

右ノ證書ハ金高十圓以上ハ一錢ノ印税十圓未滿ハ印紙界紙ヲ用ルニ及ハス

一 諸會社株手形ソウワクワシヤカテガタ

一 荷物送り狀コヨツカク

一 荷物預リ證書

一 (○地所○建家)讓與證書

一 物品讓與證書シヨウモノ

一 公債證書類讓與證書コウサイ

一 跡式讓狀アトシキ

右ノ證書類ハ金高ニ拘カハラス總テ一錢ノ印税

○明治八年第百二十六号布告ヲ以テ左ノ通追加スツイカ

一 預リ米(○証文○手形)

一 預リ雜穀(○証文○手形)

右證書ハ(米高五石雜石高十石)以上ハ總テ一錢ノ印税(米高五石雜穀高十石)未滿ハ界紙ヲ用ユヘシ

○附錄○証券印税規則

○第二類諸証書

- 一 借入金証文
- 一 預り金(○証文○手形)但使用ヲ爲サハルノ明文無之分
- 一 地所並建家賣渡証文
- 一 地所並建家(○質入○書入)証文
- 一 公債証書類賣買証文

○明治七年百三十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス
 一 諸品賣買仕切書

○明治十二年三十一号布告ヲ以テ左ノ但書追加ス
 但シ買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問屋仲買又ハ其他
 ニ於テ仕切リ其價等ヲ荷主ヘ証明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他
 ニ物品又ハ輸送スルニ方テ其物賣却ノ價額ヲ荷受主ニ向テ証明報告スル書類

右ノ仕切書ハ

チ云フ

書面金高十圓未満ハ

界紙ニ及ハス

同斷金高十圓以上二十圓未満ハ

印稅 一 錢

同斷金高二十圓以上三十圓未満ハ

同 二 錢

同斷金高三十圓以上四十圓未満ハ

同 三 錢

同斷金高四十圓以上五十圓未満ハ

同 四 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅増加致スヘシ

一 荷爲換手形

一 諸請負証文

一 金錢約定証文

一 金錢約定爲取換証文

○附錄○証券印稅規則

- 一 米穀並諸品賣買約定証文
 - 一 米借用証文
 - 一 雜穀借用証文
 - 一 賣買用諸品(代價拾圓以上)借用証文
 - 一 借地証文
 - 一 借家証文
 - 一 金十圓以上記載雇人請狀
 - 一 諸賣買証據金預リ手形
 - 一 諸敷金証文
- 明治八年百二十六号布告ヲ以テ左ノ通り追加ス
- 一 預リ米(○証文○手形)但使用ヲ爲サ、ル明文無之分
 - 一 預リ雜穀(○証文○手形)但使用ヲ爲サ、ル明文無之分

- 右ノ証書類ハ
- 書面
 - 金高十圓未滿ハ
 - 米高五石未滿ハ
 - 雜穀高十石未滿ハ
 - 同斷
 - 金高拾圓以上貳拾圓未滿ハ
 - 米高五石以上拾石未滿ハ
 - 雜穀高拾石以上二拾石未滿ハ
 - 同斷
 - 金高二拾圓以上三拾圓未滿ハ
 - 米高十石以上拾五石未滿ハ
 - 雜穀高二拾石以上三拾石未滿ハ
 - 同斷
 - 金高三拾圓以上四拾圓未滿ハ
 - 米高拾五石以上二拾石未滿ハ
 - 雜穀高三拾石以上四拾石未滿ハ
- 右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加イタスヘシ
- 第三類諸証書
- 一 諸酒切手
 - 右ノ切手ハ
- 附錄○証券印紙規則
- 界紙ヲ用フヘシ
- | | |
|----|----|
| 印税 | 一錢 |
| 全 | 二錢 |
| 全 | 三錢 |

升目一升未滿ハ

界紙ニ及ハス

同一升以上一斗未滿ハ

印税 一 錢

同一斗以上二斗未滿ハ

全 二 錢

同一斗以上三斗未滿ハ

全 三 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加イタス可シ

○明治七年百三十六号布告ヲ以テ左ノ通り追加ス

一爲換手形

一荷爲換手形

右手形ハ

書面金高五十圓未滿ハ

界紙ニ及ハス

同斷金高五十圓以上百圓未滿ハ

印税 一 錢

同斷金高百圓以上百五十圓未滿ハ

同 二 錢

同斷金高百五十圓以上二百圓未滿ハ

同 三 錢

同斷金高二百圓以上二百五十圓以下未滿ハ

同 四 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加致スヘシ

一食類切手

右ノ切手ハ

代金高二十五錢未滿ハ

界紙ニ及ハス

同二十五錢以上二圓五十錢未滿ハ

印税 一 錢

同二圓五十錢以上五圓未滿ハ

全 二 錢

同五圓以上十圓未滿ハ

全 三 錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加致スヘシ

一米油醬油其外諸品賣買切手

右ノ切手ハ

○附錄○證券印税規則

代金二十五錢未滿ハ
 同二十五錢以上五圓未滿ハ
 同五圓以上十圓未滿ハ
 同十圓以上二十圓未滿ハ
 右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 荷物請取書	界紙ニ及ハス
右ノ受取証ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附添之分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印紙貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ	印稅 一 錢
一金高記載無之(○約定證書○雇人請狀)類	全 二 錢
右ノ證書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ	全 三 錢

○明治十二年三十一号布告ヲ以テ左ノ一項追加ス
 一 銀行當座預リ金小切手

右ノ小切手ハ金高二係ハラス總テ壹錢ノ印紙ハ徵収シ大藏省ニ於テ稅印ヲ押捺スルモノトス

第二條 証書ハ總テ証書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙全面滅却セサル様第一号圖ノ通調印致スヘキ事

第三條 院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ調印セル受取書証書類ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第四條 租稅並ニ賦金及ヒ區入費取立ノ節區戶長ヨリ相渡候受取書ハ界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第五條 官祿家祿賞典救助受取書又ハ裁判請書及ヒ訴訟濟口證文等ハ都テ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

○附錄○証券印稅規則

○第一類諸帳簿

一金錢判取帳

一質物通帳

一金錢當座預り通帳

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上二百圓未満ハ

印稅一錢

同斷金高二百圓以上三百圓未満ハ

全二錢

同斷金高三百圓以上四百圓未満ハ

全三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

○第二類諸帳簿

一質物臺帳

一金錢一時(○貸○借)通帳

一諸品損料帳

一商賣品當坐(○貸○借)通帳

一金錢預り通帳但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之分

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上二百圓未満ハ

印稅五錢

同斷金高二百圓以上三百圓未満ハ

全拾錢

同斷金高三百圓以上四百圓未満ハ

全拾五錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

○第三類諸帳簿

一荷物判取帳

○附錄○証券印稅規則

一 諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ハラズ一ケ年ニ付印稅貳拾錢

第二條 (○第一類○第二類)帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ一ケ年以上附込へキ見積金高ヲ以第三號書式ノ通帳簿ノ初丁へ自身ニ相記シ其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以調印致スヘキ事

但帳簿初丁へ記シタル附込見積金高相滿候迄ハ何ケ年相用候トモ苦シカラサル事

第三條 第三類ノ帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見積リ第四號書式之通帳簿ノ初丁へ自身ニ相記シ其年限ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以調印致スヘキ事

但帳簿ノ初丁へ記シタル年限相滿候迄ハ何箇數附込候トモ苦シカラサル事

第四條 一旦印紙貼用ノ(○第一類○第二類)帳簿附込見積金高相滿候歟又ハ第三類

帳簿年限相滿餘白ノ紙數有リテ再用セント欲スル者尙其帳簿ニ應シ(○第三号○

第四号)書式ノ通改テ書記シ印紙貼用致スヘキ事

第五條 第二類ノ証書ヲ若シ便利ノ爲帳簿ニ相綴リ書載候儀不苦候得共其帳簿ハ其附込ノ扉毎ニ第二則第一條ノ通印紙貼用致スヘキ事

第六條 印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ可有之尤其節ハ巡廻日限前以可相達候條印紙貼用ノ帳簿ハ無遺漏調査ヲ受クヘキ事

第七條 (○第一類○第二類)附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限相滿候節ハ其帳末ニ第五号書式ノ通與書ノ上調印致シ置前條官員巡廻ノ節差出檢印ヲ受クヘキ事

第四則 賞罰例

第一條 証券界紙相用ヘキ証券類ニ証券界紙ヲ用ヒサル者ハ脱稅高(界紙定價三種平均五厘)ノ貳拾倍(則拾錢)其証書ヲ受取タル者ハ脱稅高ノ拾倍(則五錢)過料

○附錄○証券印稅規則

タルヘキ事

第二條 (○第一類○第二類○第三類)ノ証書ニ証券印紙貼用セサル者ハ脱税高ノ貳拾倍其証書ヲ受取タル者ハ脱税高ノ拾倍過料タルヘキ事

第三條 (○第一類○第二類)ノ諸帳簿ヘ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ税高ノ貳拾倍過料タルヘキ事

第四條 (○第一類○第二類)証券印紙貼用ノ帳簿見積金高附込相濟餘白ノ紙數之レアリトテ第三則第四則ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脱税高ノ拾倍過料タルヘキ事

第五條 第三類ノ諸帳簿ヘ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高(譬へハ無印紙ニ一ヶ年未滿相用フル者ハ則貳拾錢ノ脱税ニヶ年未滿相用フル者ハ則四拾錢ノ脱税ニ當ル類ナリ以上之ニ準シ一ヶ年以内貳拾錢ツ、ノ割合ヲ以テ之ヲ算ス)ノ六倍過料タルヘキ事

第六條 第三類証券印紙貼用ノ帳簿期限相滿餘白ノ紙數之レアルトテ第三則第四則ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脱税高(譬へハ証書上同斷)ノ四倍過料タルヘキ事

第七條 諸証書帳簿証券印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ其減税高ノ拾倍其証書受取タル者ハ減税高五倍ノ過料タルヘキ事

第八條 規則ニ從テ貼用セシ諸証書帳簿ノ証券印紙ニ調印セサル者ハ三十圓以下ノ過料タルヘキ事

但其調印セサル証書ヲ受取タル者ハ渡主ニ科スル半高ノ料料タルヘキ事

第九條 証券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナル歟或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサル歟又ハ界紙可相用諸証書ニテ界紙ヲ用ヒサル証書ヘ証人ニ相立又ハ與書等致シ候者ハ貳拾五圓以下ノ過料タルヘキ事

第十條 官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條ニ背キ証券(○印紙○界紙)ヲ賣捌致シ

○附錄○証券印稅規則

候者ハ其品取揚ケ既ニ賣捌タル(○印紙(○界紙)代ノ百倍其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取揚ケ(○印紙(○界紙)代ノ五十倍過料タルヘキ事

第十一條 証券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸帳簿ニ調印イタシ候者ハ其人毎ニ帳簿主ヨリ取立候過料高百分ノ一ツ、各過料タルヘキ事

第十二條 一旦相用ヒ調印セシ証券印紙ヲ再用セントメ之ヲ剝取り調印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタル者ト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ六拾圓以下ノ過料タルヘキ事

第十三條 証券(○印紙(○界紙)ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ是ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ過料タルヘキ事

第十四條 前數條ニ掲クル處ノ犯則人ヲ見届ケ訴出ル者アルキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其過料金ノ半高ヲ下サルヘキ事

○明治八年五十一號ノ布告ヲ以テ左ノ通り十五條ヲ增加ス

第十五條 証券印紙貼用スヘキテ界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ拾倍其受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事

第五則 附錄

第一條 諸證書ニ外國貨幣ヲ以テ記載セル分ハ其節ノ相場ヲ以テ内國通貨ニ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事

第二條 公債証書類ハ其証書面ノ金高ニ拘ハラヌ賣買ノ正金高ヲ以テ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事

第三條 官ノ金穀諸拜借証文ノ儀衆庶一般ノ災厄ヨリ起レル救助ニ關スル分ハ(○印紙(○界紙)ヲ用フルニ及ハサレテ其餘ノ諸拜借ハ總テ借用金穀証文規則ノ通タルヘキ事

第四條 印紙貼用アル諸證書ハ事故アリテ書改候節ハ新証書へ更ニ印紙貼用致スヘキ事

○附錄○証券印稅則

第五條 凡ソ諸証書帳簿ニ誤リテ過剩ノ印紙ヲ貼用セル者ハ其証ニ於テ妨ケナキ事

第六條 諸証書ヲ差戻シ又ハ諸切手類現品引替ノ節戻シ主ニテ當テ調印アル印紙面
ヲ塗消シ或ハ引裂キ相戻スヘキ事

第七條 各所問屋ヲ經テ送致スル荷物送狀ヲ途中(宿湊問屋)ニ於テ其儘繼送候節ノ
添狀ハ印紙貼用ニ及ハサレモ右荷物ヲ引分ケ各別ニ差送候節ノ新規送狀ハ規則ノ
通印紙貼用致スヘキ事

第八條 爲取換約定書ノ類ハ雙方トモ印紙貼用致スヘキ事

〔第九條〕 (此條ハ七年八十九號布告ヲ以テ左ノ通り改正)

第九條 院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等へ貢金其他官金相預候節預リ金証文
並ニ預リ金通帳ハ印紙界紙ヲ用ユルニ及ハサル事

〔第十條〕 (此條ハ八年第四号布告ヲ以テ削除セラル故ニ零ス)

第十一條 印稅規則ニ相觸候証書並ニ帳簿ヲ授受致候儀相顯レ規則ノ通過料金差出

候後ニ至ツテモ其証書帳簿ハ取揚ケ裁判不相成事

第十二條 前條ニ掲グル証書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ
印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十三條 第十一條ニ掲グル証書ノ内界紙可相用處他紙ヲ相用候証書ヲ以テ公裁ヲ
仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ其証書へ一錢印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取上ケ
裁判可致事

第十四條 第十一條ニ掲グル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ帳簿主ニ於テ相
當印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚裁判可致事

第十五條 甲乙等ノ號ヲ各帳へ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツ、所持シテ相
互ニ交換致ス通帳ノ類ニ冊トモ後証トナルヘキモノハ甲乙トモ印紙貼用致スヘキ
事

第十六條 旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受候トモ又ハ

○附錄○証券印稅規則

出先ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受候_レ便宜ニ任スヘキ事

第十七條 最初帳簿_{サイソコ}附込_{ツレヨミ}見積金高百圓以内ト見込印紙_{ハツカ}貼用セ_ル官員ノ調査ヲ受サ_ルモノ漸々_{セシク}附込_{リサ}相嵩_{アヤマツ}ミ誤_リテ百圓以上ニ及_ヒ候者ハ附込金高貳百圓以内ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其管轄應ヘ差出調査ヲ受候ニ於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條 印紙多數用フル節証者_{ケウアイ}而狹隘ニテ貼用シカタキ分ハ証書裏面ヘ貼用致シ

第二号圖ノ通調印イマスヘキ事

○明治七年百三十七号布告ヲ以テ左ノ一箇條追加ス

一委任狀ノ儀ハ總テ界紙ヲ用フ可キ事

圖 號 壹 第

證書渡主ノ實印

證

一金何圓何拾錢
一金何拾圓

印紙

金何拾何圓何拾錢
右ノ通、、、、、、、

年號月日 何ノ誰印

證書渡主ノ實印

證

一金何百何拾圓

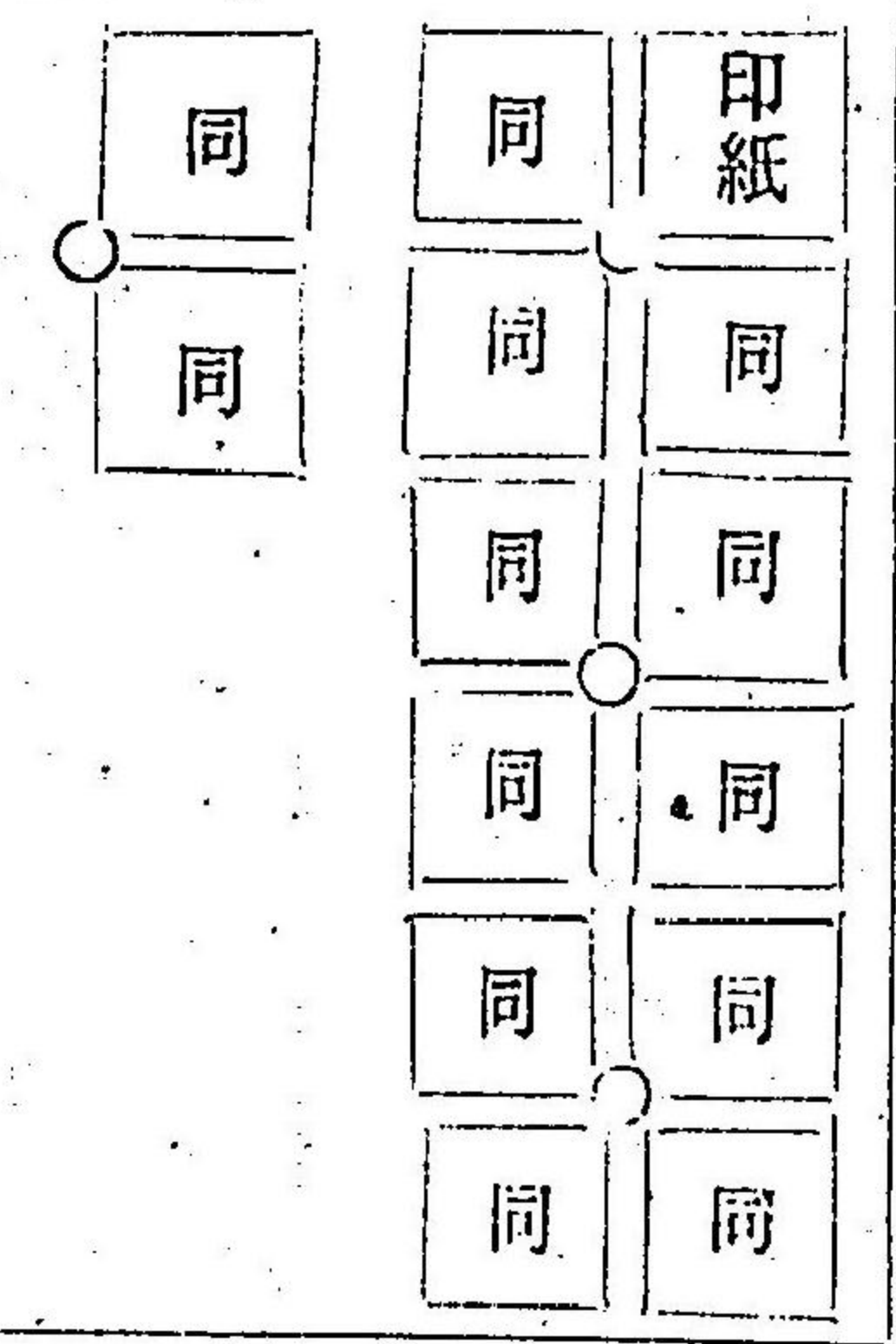
印紙

右者、、、、、、、、、

年號月日 何ノ誰印

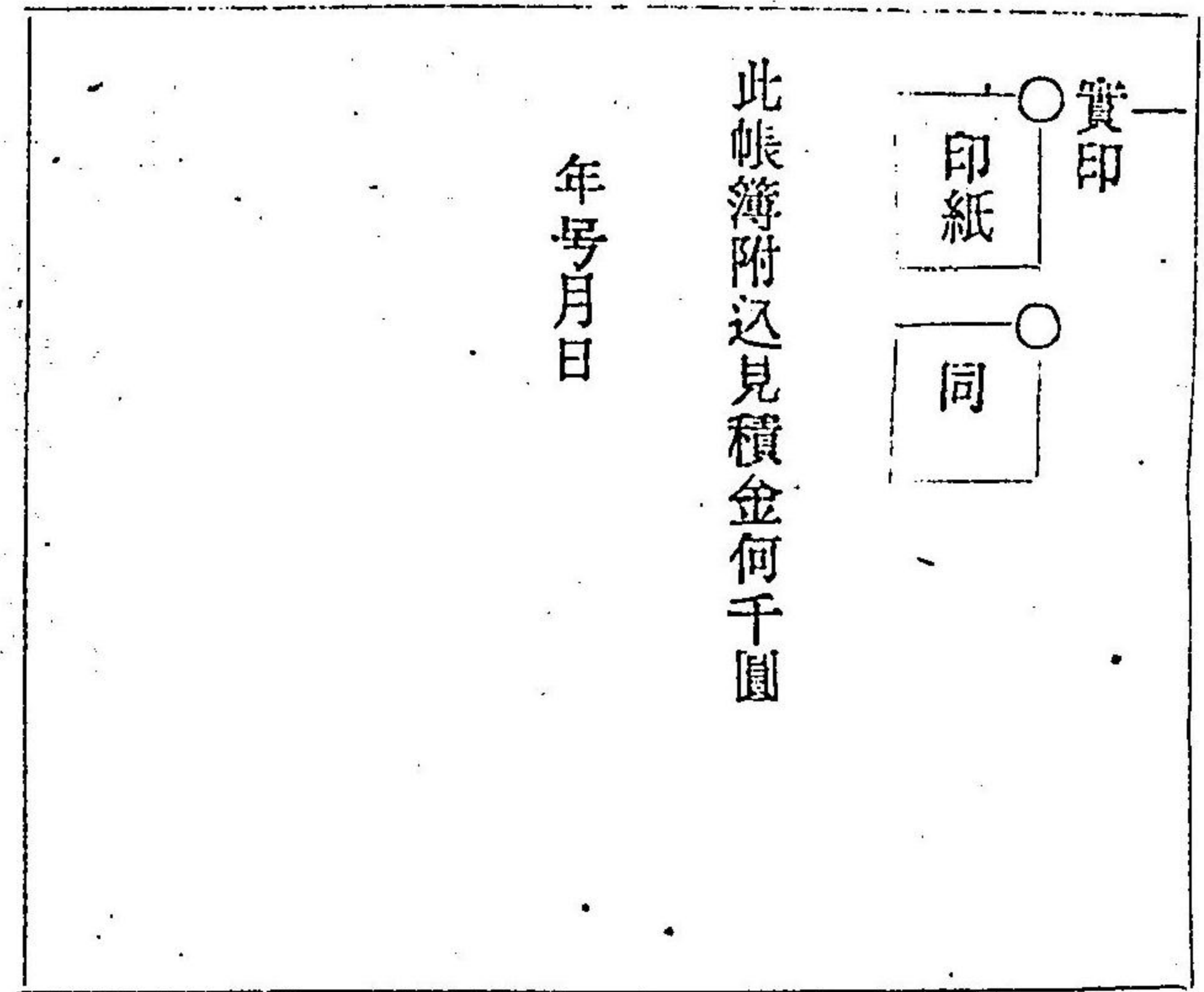
○附錄○証券印稅規則

圖 號 貳 第



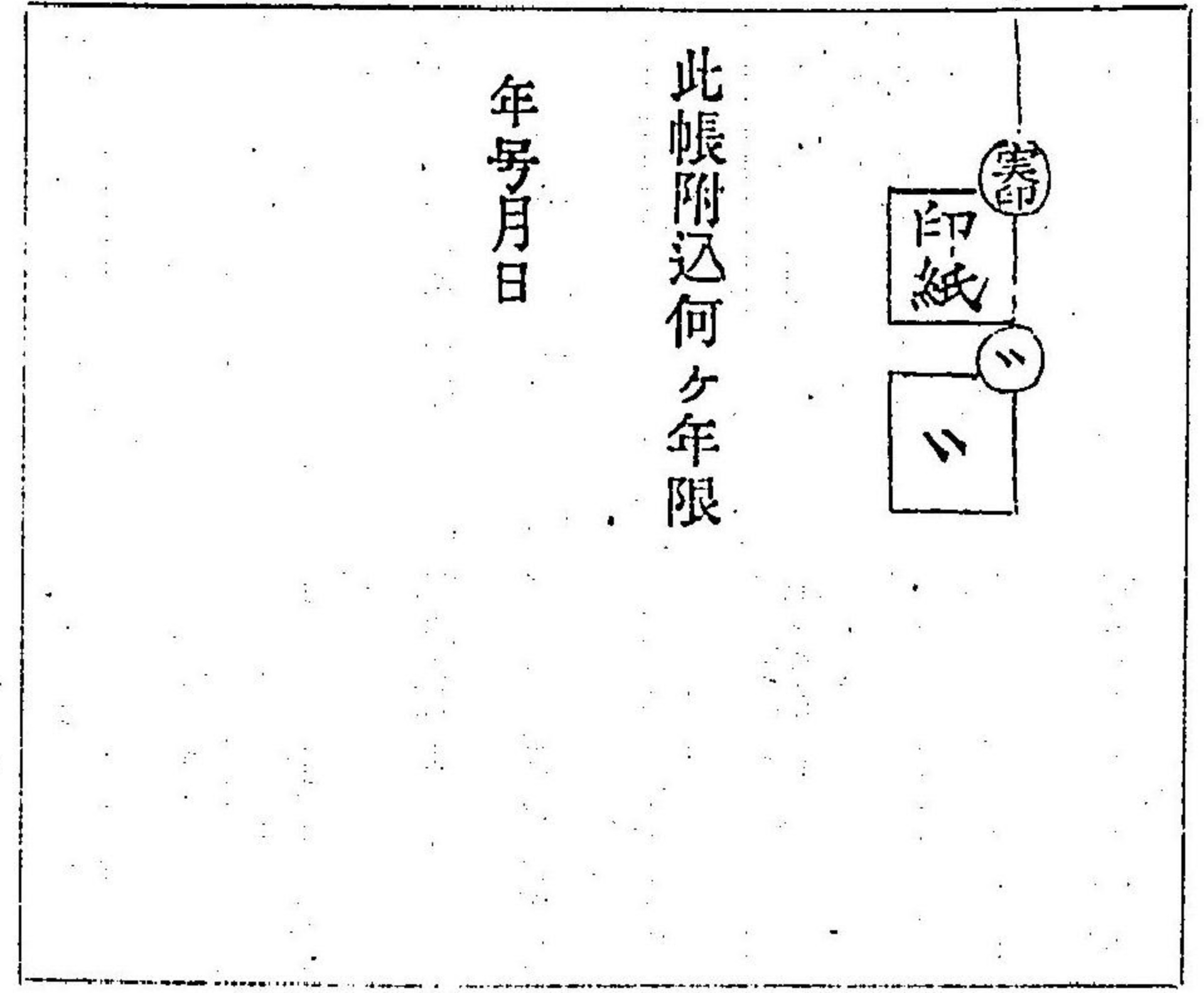
○印ハ証券渡主ノ實印

式 書 号 三 第

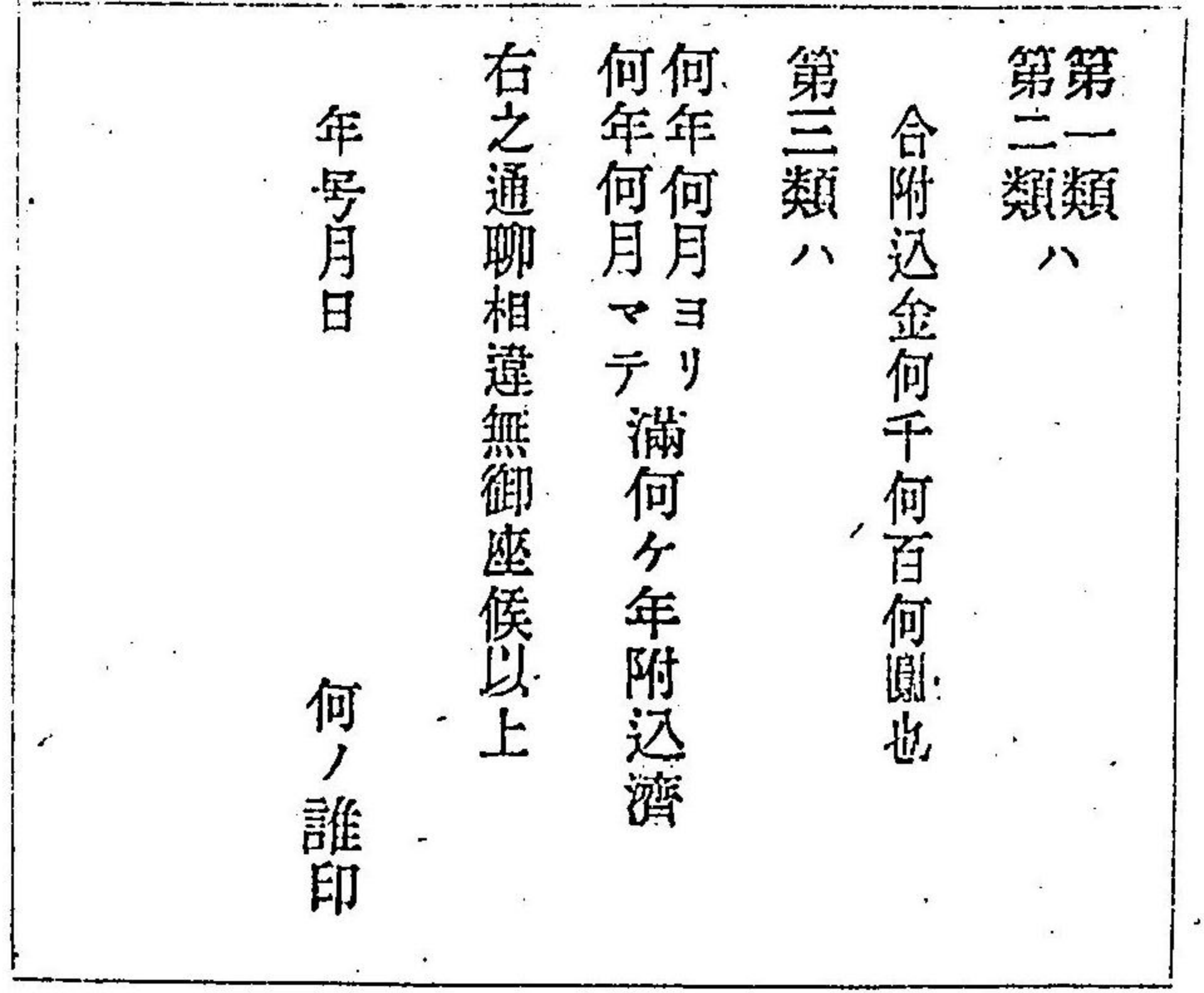


帳簿主ノ印

式 書 号 四 第



式 書 号 五 第



○附錄○証券印稅規則

○明治七年大藏省達第八十號

証券印稅規則公布相成候ニ付テハ管下人民へ左之通可相達事

一証券印紙貼用セル諸帳簿ハ其表紙ノ端ニ(印稅濟)又附込見積金高百圓未滿ニテ印紙

貼用ニ及ハサル諸帳簿ニハ前同様(無稅帳)ト顯然有稅無稅ノ分別ヲ朱ニテ相記シ

取引先ノ便ニ供ヘ候様可致事

但証券印紙貼用アルヘキ諸帳簿へ萬一印紙貼印無之儘ニテ授受致シ候節ハ帳簿

主ノミナラス取引ノ上調印致シ候者ト雖モ証券印稅規則中賞罰例第十一條ノ通

リニ候條各自精々注意可致事

○明治八年大藏省布達甲第八號

人民財産ノ受授並交際上相用候諸帳簿ノ儀ハ証券印稅規則之通其類ニ應シタル印紙

ヲ一帳毎ニ類別ヲ以テ貼用可致事ニ候得共若シ一帳中へ第一類第二類ヲ取交セ付込

度モノハ其合計見積金高ニ應シタル第二類印紙ヲ別紙圖式ノ通貼用致置候上一帳簿

へ雜記候トモ不苦候條此旨布達候事

但第三類帳簿ニ第一類第二類ヲ雜記致シ度節ハ第三類ノ印紙貼用ノ外本文ニ準シ

第二類印紙ヲ並へ貼用可致候尤一類而已ヲ雜記致ス節ハ第一類ノ紙印ヲ並へ貼用

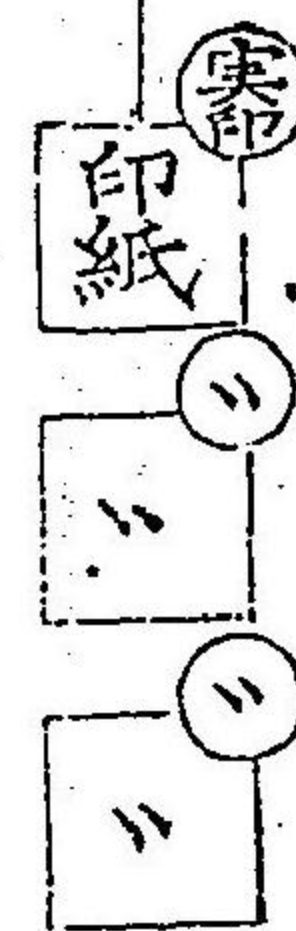
可致事

別紙

○附錄○証券印稅規則

第一類帳簿ニシテ第二類ヲ雜記シ或ハ第二類帳簿ニテ第一類ヲ雜記スルモノ書式左ノ如シ

都テ第二類印紙ヲ貼用ス
帳簿主ノ實印



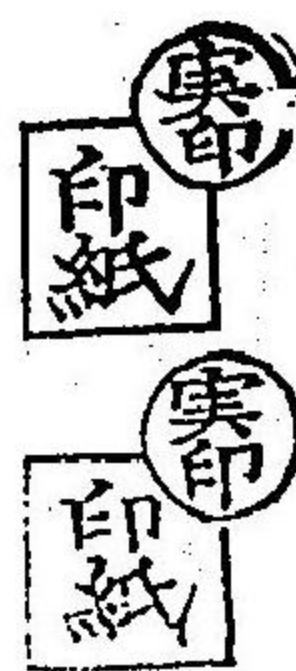
第一類第二類合計

此帳附込見積金何千圓

年號月日

第三類帳簿ニシテ第一類又ハ第二類ヲ雜記スルモノ書式左ノ如シ

第一類又ハ第二類印紙ヲ貼用ス
帳簿主ノ實印



此帳附込何ヶ年限リ

此帳附込見積金何千圓

年号月日

○附録○証券印稅規則

第三類帳簿ニシテ第一類第二類ヲ雜記スルモノ書式左ノ如シ

都テ第二類印紙ヲ貼用ス
帳簿主ノ實印

此帳附込何ケ年限リ

印紙 同 同

第一類第二類合計

此帳附込見積金何千圓

年号月日

○明治六年十月大藏省達第百四十二号

カイリクウニトヒイ
海陸運輸渡世ノ者証券印紙貼用方心得書

一 海陸運輸之諸荷物並貨幣等金高拾圓以上ノ物ハ荷主へ可相渡請取證書へ金高ニ拘
ハラス一錢印紙貼用可致候事

一 前同斷ノ物貨ニ金高拾圓以上ノ運搬料請取候節ハ其請取證書へモ前同斷貼用可致
候事

一 運輸スヘキ物貨ト其運搬料トノ請取證書ヲ荷主都合ニ寄リ別通ニセスシテ一紙証
書ヲ要スル時ハ請取書面總金高ニテ拾圓内外ノ區別ヲ分ケ兩種ヲ兼一錢印紙貼用
不苦候事

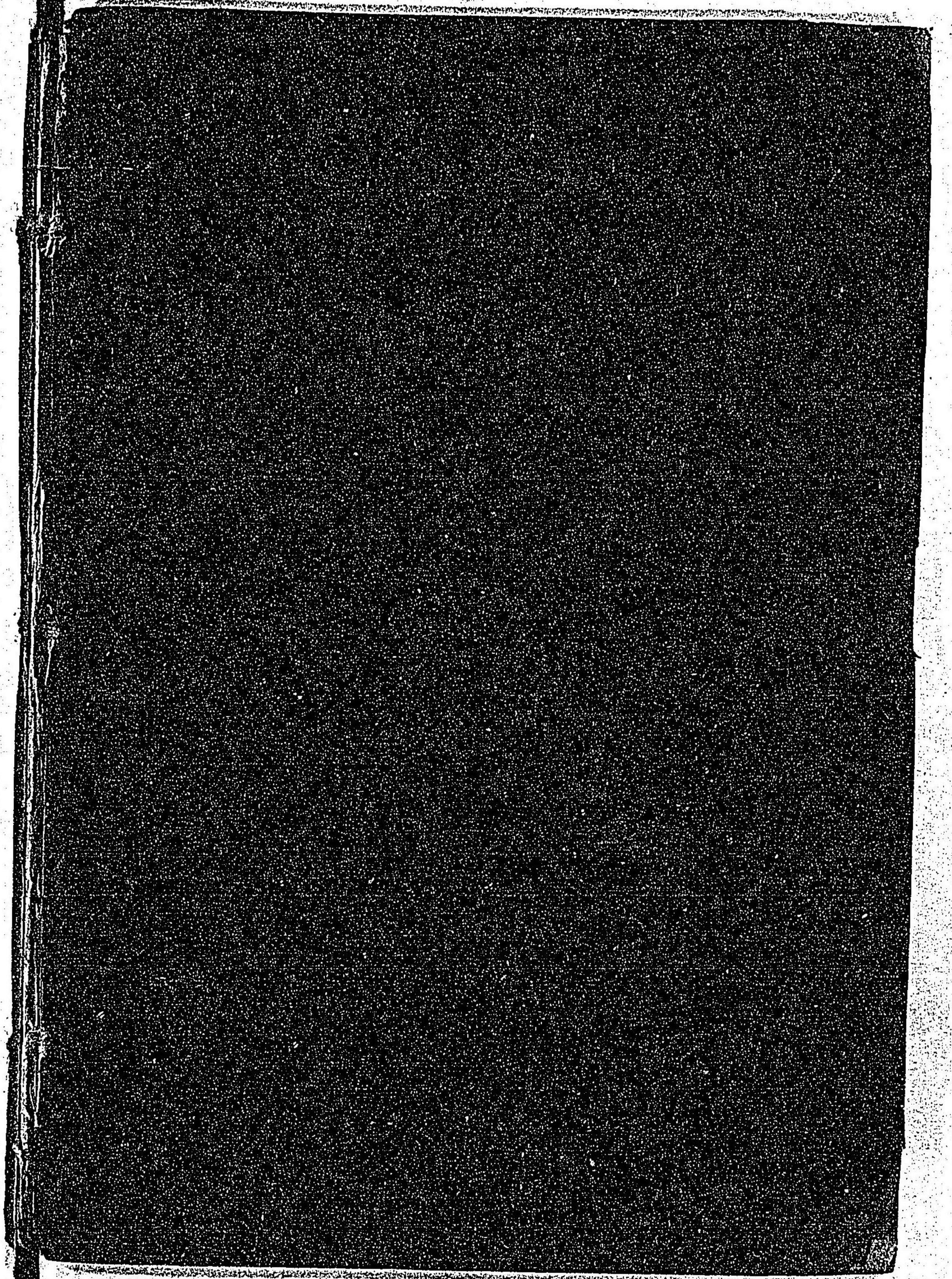
但諸物貨及ヒ其運搬料共金高拾圓以下ノ節ハ雙方請取書へ印紙貼用不及候得共

一 通證書ニ致シ候節總金高拾圓以上ニ及ヒ候ハ、本文之通印紙貼付可致候事
一 假令ハ東京ヨリ各所問屋ノ手ヲ經長崎或ハ青森等ニ達スル物貨（金高拾圓以上ノ

○附錄○証券印稅規則

26

221



26
221

037059-000-2

26-221

民事刑事現行訴訟手續

福井 淳 / 編

M16

BBS-0646



